

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

「とりあえず」からの脱皮 清水 勝彦 (慶応大学院経営管理研究所教授)
遠藤 功 (早稲田大学ビジネススクール教授)

清水 「今、どの企業もアジアに成長を求めていると言っているでしょう。私もいくつかのプロジェクトに関与して関係者にインタビュー調査しています。その中で、日本の会社で、一番国際化していないのは本社。タイや中国の現場は頑張っているのに、本社が機能しておらず、現場の実情が分かっていないというケースが目立ちます。」

遠藤 「それは権限のない現場、情報のない本社という問題です。これが日本の組織運営を悪くしています。進出先の実情を分かっている現場には権限がないから、決められない。権限はあるが、肝心の情報がない本社が悪さをしている。この構造を変えていかなければならない。本社は何をするといい場所なのか。現場は何をするといい場所なのか。その役割分担を明確にすることが求められています。」

清水 「国内でも海外でも、日本企業は資産や能力を生かしていない。小さな会社はまだ能力のある社員が分かるので、引っ張っていきやすい。大きい会社には能力の高い人がたくさんいますが、皮肉にもそれが見えにくいから埋もれてしまって、残念な結果になっているところが多い。」

遠藤 「目指すべき姿がないまま、とりあえずやってみたらこの位伸びました、というのが現実。それは単に成長に乗っかっているだけで、自ら成長を作り出しているわけではない。」

(参考:「日経ビジネス」2013年2月18日号)

経営者のための理念・哲学

「武士道」から日本の精神文化を学ぶ
夏川 賀央 (出版プロデューサー、ライター)

1. いまの日本では、道義というものが失われかけています。私たちはここでもう一度、新渡戸稲造の「武士道」を読み返して、かつて侍が大切にしていたものを取り戻さなければと強く思います。日々の仕事ではどうしても効率主義に走りがちですが、もっと原点に戻って、自分たちはなんのためにこの活動をしているのかを自問しなければなりません。
2. ただ儲けるためではなく、なぜ出版の仕事をやっているのか、なぜ電機会社に勤めているのか、運送の仕事を通じて何を成そうとしているのか、自分の仕事の根本を見つめ直して、そこにどこまで思いを込めてやっているのか、日本人一人ひとりがしっかり意識して各々の活動に取り組むようになれば、日本もこの停滞を必ずひっくり返せると思います。
(参考:「致知」:2013年5月号)

経営者のための社会学

海外で暮らす日本人増える

1. 海外で暮らす日本人が増えている。海外に住む日本人は2011年10月時点で118万人。前年比で3%増加している。2010年と2009年は1%増だったので増え方は加速している。地域別に見ると、45万人いる北米が最も多いが、次がアメリカの33万人。アジアは5年前に比べ19%も増えており、全体の伸び率11%を大きく上回る。アジアで暮らす日本人が増えているのだ。
2. 2011年3月の東日本大震災後、移住への関心が大きく高まった。以前は富裕層が中心だったが、今は広がりが出てきている。「介護」を目的として移住も増えている。認知症の母親の介護に日本では月33万円かかったが、マレーシアでは10万円ほどで済んでいる。「年金」を手元にした海外移住も活発だ。「働く」目的でアジアに暮らす人も増えている。

(参考:「週刊東洋経済」2013年2月9日号)

古典に学ぶ

母なるもの

(解説) うつろなものは、無限の創造力を持つ。谷を見よ。谷は「母なるもの」である。母なるものの門、それが天地の根元なのだ。永遠に滅びることもなく、生めども生めども疲れを知らない。生みのはたらきを女性に象るのは、東西を問わず、人類に共通する発想である。この原始信仰を、うつろなもの、つまり「無」のはたらきに結びつけたのは、老子のユーモアであろう。

(参考:奥平卓・大村益夫役「老子・列子」:徳間書店)